

房総の 文化財

VOL.26

平成13年11月30日

財団法人 千葉県文化財センター

〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2

TEL 043-422-8811(代)

FAX 043-422-8850

www.chibaken-bunkazai-center.or.jp

ISSN 0919-0848

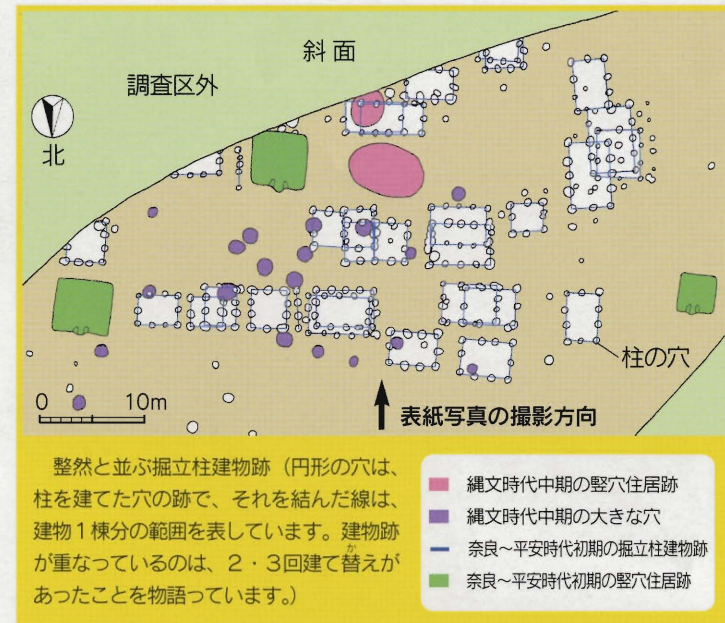
Bôso no bunkazai



CONTENTS

- | | |
|----------|-----------------------------|
| 発掘調査速報 | 酒々井町飯積原山遺跡 |
| 遺物紹介コーナー | 君津市踊ヶ作遺跡出土鉄板 |
| 遺跡今昔物語 | 県指定史跡佐倉市飯郷作遺跡 |
| 埋文アラカルト | コラム・お知らせコーナー・
埋文レポートコーナー |

整然と並ぶ古代の建物群―酒々井町飯積原山遺跡―



飯積原山遺跡は、印旛郡酒々井町飯積にあり、平成6年度から継続して発掘調査が行われています。

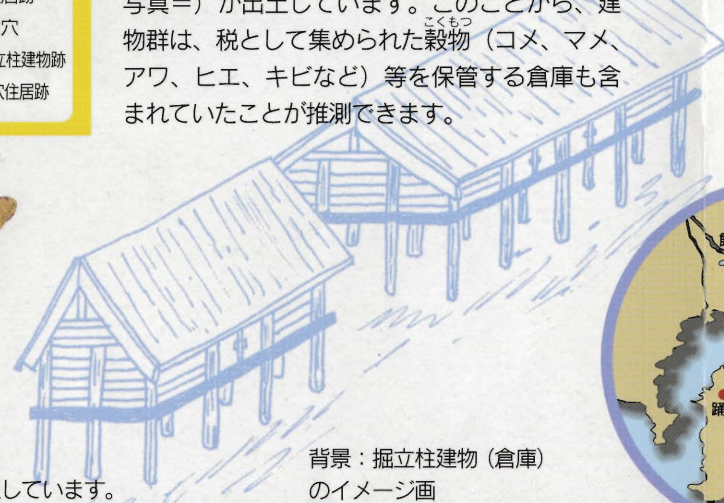
平成12年度の調査では、奈良時代から平安時代初期にかけての竪穴住居跡と掘立柱建物跡が発見されました（表紙写真）。

なかでも興味深いのは、整然と並ぶ27棟の掘立柱建物跡です。全てが同時期に建てられたわけではありませんが、郡衙（郡の役所）よりも規模が小さい役所の建物の可能性があり、大変貴重な発見となりました。

この建物群の周辺からは、焼けて炭になったコメや壺で「三倉」と書かれた土器（壺書土器＝写真＝）が出土しています。このことから、建物群は、税として集められた穀物（コメ、マメ、アワ、ヒエ、キビなど）等を保管する倉庫も含まれていたことが推測できます。



▲「三倉」と書かれた土器（壺）。この文字資料は、竪穴住居跡からも出土しています。



背景：掘立柱建物（倉庫）のイメージ画



遺物紹介コーナー

古代のお墓から出土したナゾの鉄板

―君津市踊ヶ作遺跡出土―

写真2は、奈良・平安時代のお墓（火葬墓）から出土した鉄板と骨蔵器で、板の一部が付いたままの釘も一緒に見つかりました。このことから、骨蔵器は木の箱に納められ、鉄板をその箱の上に置いて埋められたと考えられます。鉄板のおよその大きさは、長さ25cm、幅9cm、厚さ0.5cmです。

では、この鉄板は何なのでしょう。お墓に板状のものが一緒に埋められている例として、陶器や金属の板で作られた墓誌や買地券といったものがあります。これらは古代中国の思想に基づく習慣で、墓誌はその人の生前の経歴などが書かれたもの、買地券はあの世の神様から墓地を買取ったことを記したものです。

踊ヶ作遺跡出土の鉄板からは、今のところ文字や記号は確認されていませんが、墓などで文字が書かれていたのではないかと考えられます。県内の奈良・平安時代のお墓から、墓誌や買地券と一緒に出土したのは大変珍しく、袖ヶ浦市雷塚遺跡など、ほんの数例しかありません。



写真1 踊ヶ作遺跡の調査風景（平成12年）



写真2 骨蔵器は、甕に杯でフタをした状態で出土し、中に遺骨が納められていました。火葬墓は、県内では市原市から富津市にかけての東京湾地域に集中しています。

遺跡 今昔 物語

県指定史跡・飯郷作遺跡
―高校の敷地に保存された古墳群―

遺跡が発掘調査されるきっかけは、住宅地の開発、高速道路や鉄道の建設など様々です。ここで紹介する飯郷作遺跡は佐倉市にあり、県立佐倉西高等学校を新設するのに先立って、昭和51年から52年にかけて調査が行われました。

遺跡は印旛沼を北に望む、入り組んだ台地の上にあります。弥生時代から奈良・平安時代までの住居跡109軒、掘立柱建物跡6棟のほか、古墳時代前半（4世紀）の前方後方墳2基、方墳4基、方形周溝墓*23基が発見されました。このうち前方後方墳1基、方墳2基、方形周溝墓5基（写真1・2）は、比較的短い間に、連続して造られており、墓の周りを取り巻く溝の一部を共有していることがわかりました。

弥生時代から続く墓の様式である方形周溝墓と、古墳時代に新しく広まった前方後方墳と方墳が、このようにひとまとまりになって

発見されたのは、当時、全国でも珍しく、弥生時代から古墳時代にかけて、この地域がどのように変化したのかを解き明かす上での、貴重な資料となりました。このため、発見された古墳群の一部を整備して保存することになり、校舎はこれらを避けて建設されました（写真3）。

保存された古墳群（前方後方墳1基、方墳2基、方形周溝墓5基）は、昭和54年に県の史跡に指定され、学校での生きた歴史学習の場として活用されています。*

* 方形周溝墓については、「方墳」としてとらえる考え方もあります。

** 見学をご希望される場合は、事前に学校に連絡していただきたいとのことです。なお、遺跡の資料は、県立房総風土記の丘（栄町）で保管され、学校にも一部展示されています。



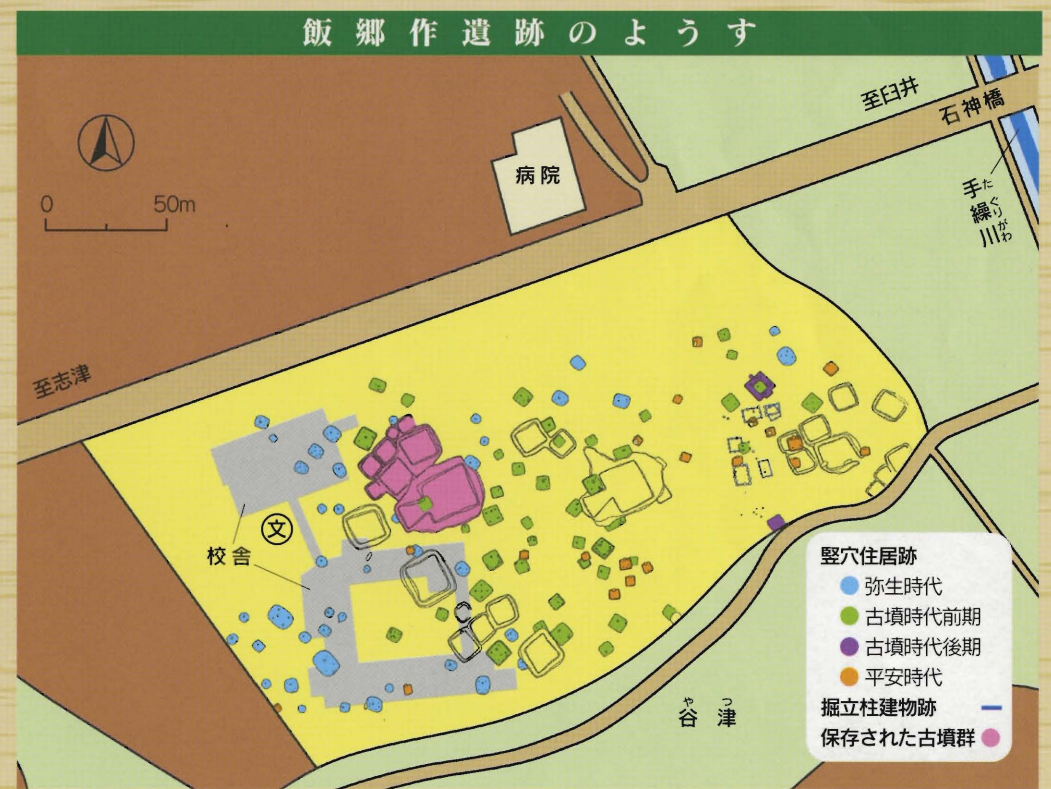
写真1 発掘当時の古墳群
1（前方後方墳）、2・3（方墳）、4～8（方形周溝墓）
（写真提供：県立房総風土記の丘／昭和52年撮影）



写真2 調査中の古墳群（中央）と建設中の校舎（左上）。
（写真提供：県立房総風土記の丘／北から撮影）



写真3 保存整備された古墳群。写真1とほぼ同じ位置から撮影
（平成13年10月撮影／協力：県立佐倉西高等学校）



日本の時代区分表

旧石器時代

縄文時代

弥生時代

古代 中世 近世 近・現代

（注）日本の旧石器時代の始まりについては、現在、再検討されています。よって、本紙では、新たな見解が発表されるまで、年代の記載を中止いたします。

約12000年前（この表は、100年を5mmで表現してあります。したがって、縄文時代は約50cmにもなります。） 約2300年前

約1700年前 飛鳥時代 西暦 794 710 奈良時代 1192 1333 鎌倉時代 室町時代 1573 1603 江戸時代 明治 昭和 平成 安土・桃山時代 大正

埋文アラカルト



コラム

これ なーんだ？

写真の出土品は、古代の遺跡から見つかりました。
さて、何に使った道具でしょうか？



出土品所蔵／八千代市教育委員会

ヒント 1

この2つは、セットで使用され、日々の生活に欠かせない道具でした。(a)は鉄製で、(b)は、石英（ガラス質の石）製です。

今回紹介した例は、八千代市井戸向遺跡の竪穴住居跡（平安時代初期・9世紀初めころ）から出土しました。(a)の大きさは、長さ9cm・幅4cm・厚さ0.4cm・重さ40gです。各地の出土例を見ると、時代や地域により形やデザインが少し異なります。

ヒント 2

今でも、形は違いますが、キャンプや花火をするときには、なくてはならない道具です。

ヒント 3

時代劇では、銭形平次が出かけるシーンで、おかみさんが、「おまえさん、行ってらっしゃい。気をつけて。カチカチッ！」と、玄関で“おまじない”のように使っているのを見ることが出来ます。地域や職業によっては、今でも、厄よけの儀式として使われています。

※正解はページ下にあります。



お知らせコーナー

「土器ッ」と古代「宅配便」実施中

当センターが発掘調査した出土品をセットにし、県内の学校や公民館等の社会教育施設に貸出して、実物の資料を有効に活用していただく企画です。

セットの付属として、「火起こし具」「勾玉づくり」「縄文の文様付け」「石器（模造品）の切れ味体験」等、体験学習用のセットも貸出していますので、ぜひご利用ください。

◇費用：無 料

◇セットの搬出入：当センターが行います。

◇お申込みお問い合わせ：資料部資料課

Tel 043-422-8811（代表）



千葉市立土気南小学校にて火起こし体験

平成13年度千葉県遺跡調査研究発表会

◇内 容：県内の主な発掘調査の研究発表と、出土品の展示

◇主 催：千葉県文化財法人連絡協議会、千葉市教育委員会（共催）

◇日 時：平成14年1月20日（日）10：00～15：30

◇会 場：千葉市文化センター（ホール及び市民サロン）

【千葉中央ツインビル2号館3階・5階／
千葉市中央区中央2-5-1】

◇対象者：一般

◇参加費：無料（当日受付）

◇問い合わせ：当センター調査部企画課

Tel 043-422-8811（代表）



埋文レポートコーナー

君津市鹿島台遺跡現地説明会

「弥生時代の環濠集落—君津市鹿島台遺跡とその時代—」と題して、10月13日（土）に当センターほか主催の現地説明会と展示会が行われ、約1,000名の参加がありました。

鹿島台遺跡は、縄文時代中期から古墳時代中期の遺跡で、見学者は、環濠集落と墳墓群の説明に熱心に耳を傾け、古墳から出土した約3,700点にも及ぶ滑石製白玉（装飾品）などに目を奪われていました。

当日は、現地説明会のほかに、鹿島台遺跡の出土品と君津地域の出土資料の展示解説が、県立上総博物館で行われました。また、同館では、出土遺物巡回展「房総発掘ものがたり」も同時開催中で、見学者は、地中から掘り起こされた房総の文化財に魅了されていました。

＊巡回展は、現在、会場を県立大利根博物館に移し、開催中です。平成13年12月16日（日）まで。

問い合わせ：当センター資料部資料課

Tel 043-422-8811（代表）

「やってみたかったです！」 高校生体験発掘に感激

県立四街道高等学校の生徒延べ20名は、「さわやか高等学校推進事業」の一環として、8月1日・2日の2日間にわたって、酒々井町飯積原山遺跡（「発掘調査速報」参照）で、初めての遺跡発掘を体験しました。

猛暑の中、インディ・ジョーンズになりきった生徒から「私たちは、住居跡を掘り下げる作業を任せられました。最初は、出土品を傷付けはしないかとおそろおそろ掘っていたのですが、いつの間にか手が痛いのも気付かず、夢中になって掘っていました」などの感想が寄せられました。



「ウォーク・イン古代」千葉市・市原市を往く



平成6年からスタートしたこの企画は、県内の遺跡や施設を見学するもので、今回で8回目をむかえ、毎回好評を得ています。

11月10日（土）、JR鎌取駅に集合した参加者40名は、千葉市埋蔵文化財調査センター、大覚寺山古墳、ありよしみなみ貝塚、当センター中央調査事務所などを見学し、下総・上総路に残る郷土の埋蔵文化財に思いをはせていました。

■コラムの正解は「発火具」です。(a)は火打ち鉄、(b)は火打ち石です。なお、詳しい内容は、第27号で解説します。

■表紙写真の説明／空から見た飯積原山遺跡の掘立柱建物跡群（一部）。全体に広がる竊模様は、近年の畑の耕作あと。



コラム

続 これ なーんだ？

写真の出土品は、古代の遺跡から見つかりました。さて、何に使った道具でしょうか？



(第26号のコラムより)

前号(第26号)のコラム「これなーんだ？」で紹介した「発火具」について、説明を加えます。

(a) を火打金、(b) を火打石と言います。火打石の角に、火打金を打ち付けることにより、火花を火口(綿などの燃えやすい物)に飛ばし、火種を作りました。江戸時代は、そこに、「つけ木」(板をうすくけずった先にイオウを塗った物=マッチのような物)を当てて炎にしていた。玄関で「カチカチッ！」と行う「厄よけの儀式」は、「切り火」と言い、火にはお清めの力があると信じられています。

火打金の国内最古の出土例は、古墳時代にさかのぼり、平安時代から室町時代にかけて増加します。江戸時代になると、形の種類も増え、最も盛んに使用されましたが、明治時代になってマッチの登場により、すっかり影を潜めました。なお、マッチは、6世紀に中国で発明され、19世紀前半のイギリスで今の形になったと言われています。



お知らせコーナー

平成14年度の主な行事予定

No	行事名	行事の概要	開催日	会場	対象者	参加費	備考	担当課
1	発掘調査の現地説明会	当センターが平成14年度に実施する発掘調査の成果を、現地において一般公開します。	未定 (決定次第お知らせします)	発掘調査現場	一般	無料	最寄りの駅からの送迎あり	調査課
2	千葉県遺跡調査研究発表会(第18回)	千葉県における埋蔵文化財発掘調査の最新の成果を発表し、これを展示して紹介します。	H.15.1.19.(日)	千葉市文化センター	一般	無料	千葉県文化財法人連絡協議会主催	企画課
3	「土器」と古代「宅配便」	実物の土器・石器などを学校等に貸出し、授業等に活用してもらう企画です。体験学習の支援も行い、出前授業や、講座を担当する場合もあります。	貸出期間は、2週間程度から1年間以内(更新可能)	—	県内の学校及び社会教育施設	無料	土器・石器のセットの搬出入は、原則としてセンターが行います。	資料課
4	平成14年度出土遺物巡回展 —房総発掘ものがたり—	センターと県内地区文化財センターが調査した遺跡の中で注目される遺跡を選び、旧石器時代～中世の出土品を県内9博物館で巡回展示します。	H14. 6.15.(土)～H14. 7.14.(日) H14. 7.20.(土)～H14. 8.18.(日) H14. 8.24.(土)～H14. 9.23.(月) H14. 9.28.(土)～H14.10.20.(日) H14.10.26.(土)～H14.11.24.(日) H14.11.30.(土)～H14.12.23.(月) H15. 1. 5.(日)～H15. 2. 2.(日) H15. 2. 8.(土)～H15. 3. 9.(日) H15. 3.15.(土)～H15. 4.20.(日)	浦安市郷土博物館 県立大根根博物館 県立房総風土記の丘市立市川考古博物館 八千代市立郷土博物館 松戸市立博物館 県立関宿城博物館 県立上総博物館 県立安房博物館	一般	無料	会期中の関連企画は、各館にお問い合わせください。	資料課

*上記の予定は、変更になる場合もありますので、最新の情報(広報紙、チラシ、ポスター、ホームページなど)でお確かめください。

*行事内容についてのお問い合わせは、各担当課までお願いします。TEL 043-422-8811(代表)

その他・一般公開

No	公開事業	公開の概要	公開日	場所	対象者	費用	備考	担当課
1	展示室の公開	センター保管資料の一部を展示し、一般公開しています。	土・日・祝日・年末年始を除く平日	本部展示室	一般	無料	開室時間／9:30～16:30	資料課
2	図書室の利用	県内を始めとして、全国の埋蔵文化財発掘調査報告書約3万冊、考古学関係の本・図録・雑誌・研究紀要等約3万5千冊が閲覧できます。	土・日・祝日・年末年始を除く平日	本部図書室	一般	無料	開室時間／9:00～17:00	図書室

千葉県文化財センター・ホームページ 公開中

センターの仕事や行事予定と県内の埋蔵文化財についての情報・知識を、インターネット上で公開します。

URL/ www.chibaken-bunkazai-center.or.jp

■表紙写真の説明/君津市鹿島台遺跡。中央の2本の溝は、環濠の一部。周囲は、竪穴住居跡。

房総の文化財

VOL.27

平成14年2月28日

財団法人 千葉県文化財センター

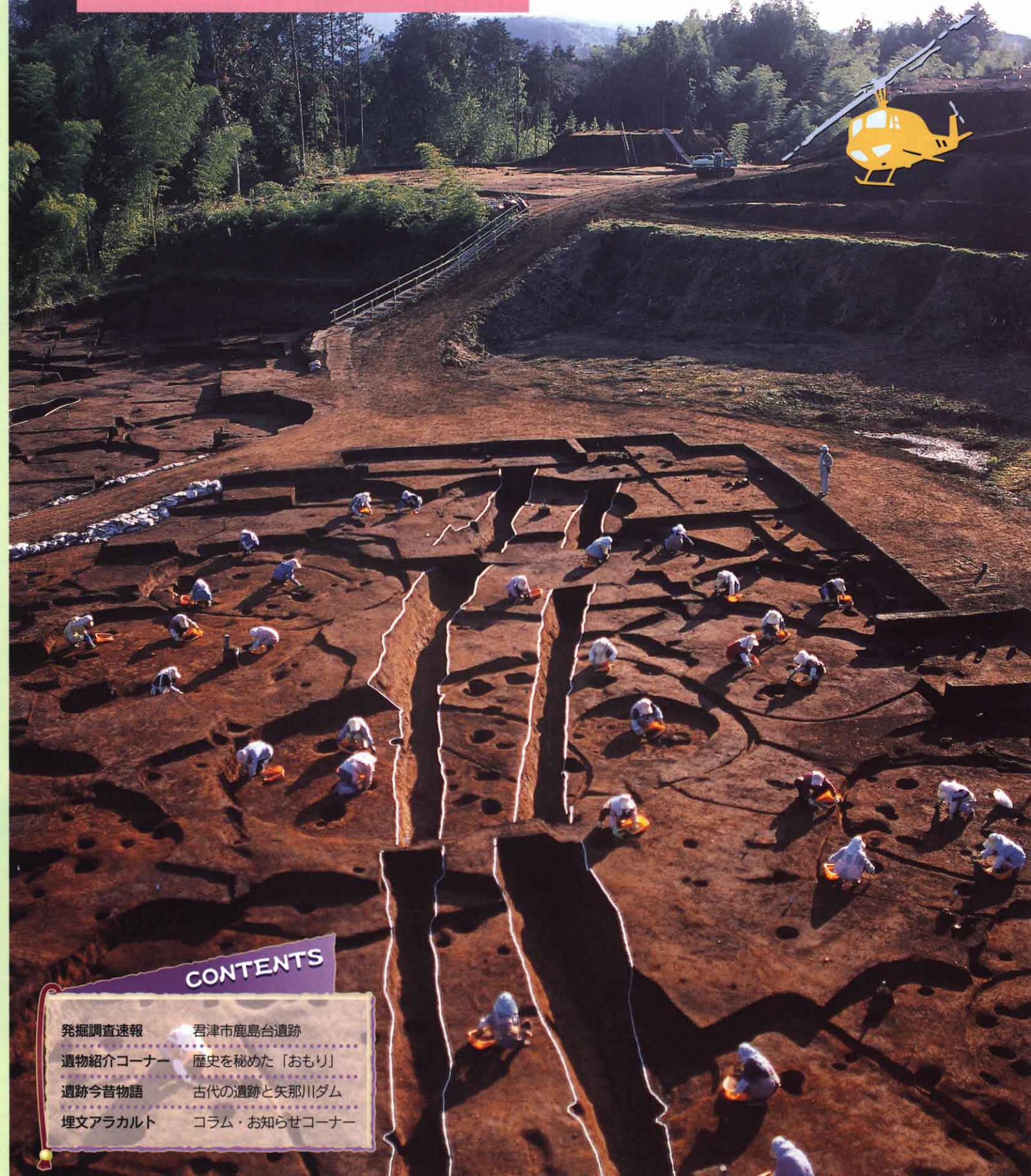
〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2

TEL 043-422-8811(代)

FAX 043-422-8850

www.chibaken-bunkazai-center.or.jp

ISSN 0919-0848
Bōsō no bunkazai



CONTENTS

発掘調査速報	君津市鹿島台遺跡
遺物紹介コーナー	歴史を秘めた「おもり」
遺跡今昔物語	古代の遺跡と矢那川ダム
埋文アラカルト	コラム・お知らせコーナー

BC(紀元前) | AD(紀元後)

柏市の小山台遺跡で調査された、縄文時代中頃の竪穴住居跡から、「石囲い炉」(石で囲った囲炉裏のような火をたく場所)＝写真＝がみつかりました。この炉は、住居の中央よりやや北側にあり、石のほとんどは使われなくなった石皿や、石斧などの石器を再利用してつくられていました。

それらの石材は千葉県内では手に入らないものです。房総の古代人にとって「石」は貴重な物であり、こわれて使われなくなった道具(石器)も大切にリサイクルしたのでしょうか。

▶ 炉の形は、約50cm×70cmほどの長方形。炉の材料は、磨石15点、軽石1点、石皿11点、凹石7点、打製石斧1点、礫8点と土器片4点でした。



千葉県文化財センターでは、県内で調査している主な遺跡について、現地説明会を実施しています。

木更津市丹過遺跡では奈良時代の役所跡に関連すると思われる建物跡等が、市川市道免き谷津遺跡・雷下遺跡では縄文時代から中世のたくさんの遺構や遺物が、それぞれ公開され、地元の人々をはじめ、多くの方々がつめかけ、大変暑い中、みなさん熱心に説明に耳を傾けていました。

当日寄せられたアンケートから、参加された皆さんの感想を拾ってみました。

- 地域の歴史が塗り替えられるような発見?ロマンを感じました。
- 自分が生まれ育ったところにも、こんな遺跡があったなんて感動しました。
- 展示の中に、建物の模型などが造られていて、とても分かりやすかった。
- また是非参加したい。
- 道路になってしまうのはもったいない
- 報告書やグッズの販売もしてほしい

等の、たくさんのご意見ご感想をいただきました。

なお、現地説明会の模様は、千葉県文化財センターHPでもご覧いただけます。

8月10日木更津市丹過遺跡



8月20日市川市道免き谷津遺跡



千葉県内では、1年間に500件以上の発掘調査が行われています。この展示会は、その調査の中から、とくに重要な発見のあった遺跡を取り上げ、出土品をいち早くみなさまに見ていただくために企画し、県内各地で開催しています。

当センターからは旧石器時代(成田市東峰御幸畑西遺跡)、縄文時代(流山市三輪野山貝塚)、奈良・平安時代(印西市鳴神山遺跡)の出土品を出展しています。

東峰御幸畑西遺跡では、たくさんの石器が大きな輪を描くようにして散らばって発見されました。これは、今から2万6千年から2万9千年前の旧石器時代のもので、大きな斧のような形をした石器もあれば、小指より小さな石器もあります。

また、奈良時代から平安時代にかけてのムラの跡が姿を現した鳴神山遺跡では、ふだんの生活で使われた土器とともに、墨で文字を書いた土器がたくさん発見されました。昔の人が書いた様々な文字をご覧ください。



各開催館では、会期中講演会等のイベントが行われます。多数のご参加をお待ちしております。

なお、出土遺物巡回展の日程や講演会等の詳細は千葉県文化財センターHP(www.chibaken-bunkazai-center.or.jp)でご確認下さい。

千葉県文化財センターでは、県内から出土した様々な出土品を学校や、公民館等へ貸出しています。併せて、実物の資料を有効に活用し、地域の歴史について理解を深めていただくために出前授業も実施しています。

また、「火おこし」「勾玉作り」「縄文の文様付け」「石器(模造品)の切れ味体験」等の体験プログラムも用意しています。費用は無料!皆様の町まで宅配します。これまでに、多くの小中学校や、社会教育施設で利用されています。ぜひご利用下さい。

写真は先日PTA主催の夏休み特別講座として、佐倉市立寺崎小学校に出前授業にうかがった時のものです。2日間にわたって、1年生から6年生までの子供達と、火おこしをしたり勾玉を作ったりしました。暑さも忘れて、みんなとても楽しそうでした。



- | | |
|----------|------------|
| 発掘調査速報 | 縄文人の地下倉 |
| 遺物紹介コーナー | 古代人のおしゃれ |
| 遺跡今昔物語 | 古代の役所発見! |
| 埋文アラカルト | コラム・埋文レポート |
| | お知らせコーナー |



「縄文人の地下倉!?!」 — 柏市大松遺跡 —



竪穴住居跡

柏市の北部を流れる利根川、その川面を見渡せる高台に大松遺跡はあります。

つくばエクスプレスの建設にともない、平成13年12月から発掘調査がはじめられ、旧石器時代から縄文時代までの生活の跡や遺物がたくさんみつかりました。

なかでも注目されるのは、縄文時代中頃（約4,000年前～5,000年前）の47軒の竪穴住居跡をとりまくように掘られた、100基を超えるたくさんの円筒状・袋状の大きな穴です。

これらの穴は、木の実など食料を貯蔵するためにつくられたものと考えられます。

調査は現在も進められていますので、終了までには、この台地にあった当時のムラの様子がさらにわかるかもしれません。



<袋状の大きな穴>



古代人のおしゃれ — らせん状鉄釧 —

今回は、弥生時代末～古墳時代はじめの珍しい釧（ブレスレット）を紹介します。

写真は、長さ1m、幅7mmほどの鉄の帯を6～7回巻いて、直径約5cmほどのらせん状にした腕飾りで、「鉄釧」といいます。市原市草刈遺跡L区の墓穴からみつかりました。また草刈遺跡では、釧が右上腕部分に、はめられた状態の人骨も発見されています（図）。

作り方は、はじめに鉄の棒を叩き延ばして細長い鉄の帯にします。次に断面がかまぼこ形になるように外側を丹念に磨きます。最後に、これを筒状のものに巻きつけていき完成です。

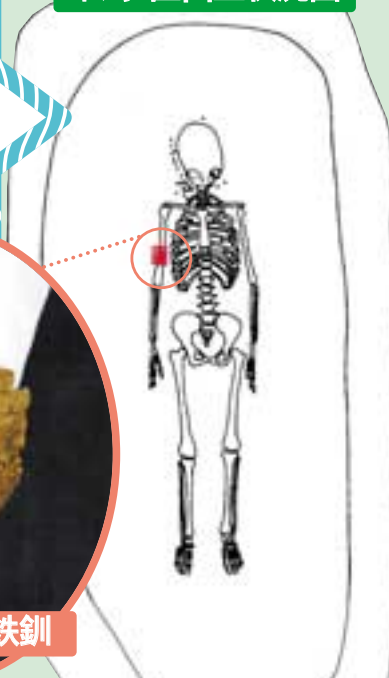
当時は、青銅の輪をいくつも連ねた腕飾りなども流行っていましたが、らせん状の鉄の腕飾りはたいへん珍しいものです。はたして、どのような人が身につけていたのでしょうか？

実際にみつかった人骨は頭と脊椎、足の骨の一部で、首には石製のビーズの首飾りをつけていました



草刈L区出土鉄釧

草刈I区出土状況図



日本の時代区分表

旧石器時代

縄文時代

弥生時代

古墳時代

平安時代

鎌倉時代

室町時代

江戸時代

明治時代

昭和時代

平成時代

(注)日本の旧石器時代の始まりについては、現在、再検討されています。よって、本紙では、新たな見解が発表されるまで、年代の記載を中止いたします。

約12,000年前 (この表は、100年を5mmで表現してあります。したがって、縄文時代は約50cmにもなります。)

約2,300年前

約1,700年前

西暦 794

飛鳥時代

奈良時代

1,192

1,333

1,573

1,603

1,868

安土・桃山時代

大正

古代の役所発見! — 我孫子市日秀西遺跡 —



昭和53年2月、我孫子市日秀地区に県立湖北高等学校を建設するため、予定地内の発掘調査が行われました。

この日秀西遺跡は手賀沼の北側の台地上にあります。古墳時代後期は多くの竪穴住居跡からなる集落でしたが、その後、奈良時代に入ると、大規模な倉庫など50棟以上の建物が整然と建ち並びました。この建物群は、下総国相馬郡の役所*1に属する倉庫（正倉）と考えられています。

また、この遺跡からは和同開珎の銀銭も見つかりました。和同開珎は日本古代の銭貨のひとつで、和銅元年（西暦708年）にはじめて作られました。銀・銅の2種類の素材でつくられましたが、銀製のものは全国的にも珍しいものです。

古代の役所の遺構としては県内最初の発見であり、関東地方でも珍しいことから、遺跡の一部が保存のため埋め戻され、出土品の一部も校内に展示されるなど学校教育にも活用されています。

さらに、平成7年には県指定史跡にも指定されました。

和同開珎



調査前



調査中



現在の湖北高等学校

*1古代の千葉県は、上総・下総・安房の3カ国に分かれ、それぞれの国はいくつかの郡からなっていました。

BC(紀元前) | AD(紀元後)

—型取り器(マコ)—

「昭和8年秋に相違ない。…妙な竹のヒゴを切揃えた大きな櫛の様な代物を取り出してこれが私の専売特許の土器実測器です…」

(『考古学』第9巻第10号、昭和13年)

著名な考古学者、故小林行雄博士が考案したこの実測器は、『弥生式土器聚成図録』に掲載された1,300点もの土器の実測に威力を発揮し、その後70年にもわたって、土器の図化と研究に貢献してきました。

「櫛の様な代物」を土器に押しあて、これを紙の上に置いて鉛筆でなぞるだけで、微妙なカーブを持つ土器のアウトラインを描くことができるのです。

現在では、コンピュータやデジタルカメラを利用したり、土器の図化の方法は進歩しています。それでも、安くて簡単、それでいて高い精度を保つこの実測器は、現役で生き続けています。



賑やかに生涯学習フェスティバル開催!!

さる11月23・24日の両日、柏市にある「さわやかちば県民プラザ」で生涯学習フェスティバルが開催されました。千葉県文化財センターも、千葉県文化財法人連絡協議会の一員としてフェスティバルに参加しました。毎年恒例となっている「古代衣装試着体験」・「勾玉づくり」や「火おこし」をはじめ様々な演目を行い、皆さんに体験していただきました。どの演目にも多くのお客様があつまり、大盛況な2日間でした。

古代衣装試着体験 ▶

勾玉づくりコーナー



遺跡調査研究発表会のお知らせ

県内の埋蔵文化財の調査・研究を行う10法人で組織する千葉県文化財法人連絡協議会では、調査成果を広く県民の皆様に紹介するために、様々な活動を行っています。

毎年行っております「遺跡調査研究発表会」を、今年度も下記のとおり実施いたします。なお、当日は出土遺物の展示や報告書等の頒布も行います。参加は無料です、皆様のお越しをお待ちしております。

日時：平成15年1月19日(日) 10:00～15:20

会場：千葉市文化センター
(千葉市中央区中央2-5-1 ツインビル2号館)
3階アートホール(研究発表会場)
5階市民サロン(展示会場)

交通：J R総武線「千葉駅」下車徒歩10分
京成千葉線「千葉中央駅」下車徒歩10分

内容：1 成田市南三里塚宮原第1遺跡(旧石器時代)
2 酒々井町墨古沢南Ⅰ遺跡(縄文時代)
3 芝山町瓜台遺跡(弥生時代～平安時代)
4 君津市鹿島台遺跡(弥生時代～古墳時代)
5 神崎町北の内古墳(古墳時代)
6 千葉市越川戸遺跡(古墳時代～平安時代)
7 市原市稲荷台遺跡(奈良・平安時代)
8 八日市場市福岡遺跡(中世)

*問い合わせ先

(財)千葉県文化財センター 調査部企画課
電話043-422-8811(代表)



展示会場風景



研究発表会場風景

上赤塚1号墳第1主体部 (千葉市緑区おゆみ野)

上赤塚1号墳は、今から1,600年ほど前に造られた円形の古墳で、写真は古墳の頂上部分で見つかった埋葬施設(墓穴)の中の様子です。中央の大きな石は、「石枕」という死者のために作られた石製の枕です。枕の上やまわりには、立花と呼ばれる飾りや、死者が生前身につけていた青銅製の腕飾りや勾玉が見えます。立花は、勾玉を二つ組み合わせた形をした物で、枕の周縁部分にいたようです。また、頭の後方部分に立てて使用されていたようです。また、頭の後方部分には、滑石という柔らかい石でできた、斧や鎌、小刀を真似て作った石製の模造品も添えてあります。どれも、死者を弔うための特別な道具です。

表紙の説明

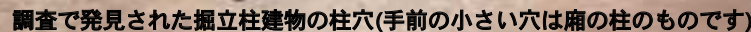


CONTENTS

発掘調査速報 畔蒜郡の役所跡発見か!?
遺物紹介コーナー 縄文人のイヤリング
遺跡今昔物語 公園の緑に眠る古墳と集落
埋文アラカルト コラム・埋文レポート
お知らせコーナー



— 木更津市丹波遺跡 —



廂がつく建物に
回廊がつながっている様子

平成15年度の
主な行事予定

* 下記の内容は変更になる場合もございますので、直接お問い合わせいただくか、センターホームページやポスター・チラシでご確認下さい。

行事名	概要	開催日	会場	対象者	参加費
発掘調査の現地説明会	当センターが平成15年度に実施する発掘調査の成果を現地において一般公開します。	未定 (決まり次第お知らせします)	各遺跡発掘調査現場 (最寄り駅からの送迎あり)	一般	無料
千葉県遺跡調査研究発表会	県内の埋蔵文化財発掘調査の、最新の成果を発表し、これを展示して紹介します。	H16.1.19(日)	千葉市文化センター	一般	無料
「土器 ^{ドキ} ッと古代“宅配便”」 一見て・さわって 歴史体験	発掘調査で出土した実物の土器や石器を、セットで貸し出し活用していただく企画です。ご希望の施設まで宅配いたします。体験学習などの出張授業にも伺います。	貸出し随時	学校・公民館等	県内の学校 及び社会教育施設等	無料
体験シリーズ ー古代モノづくり工房ー 大昔の石器を作ろう！	大昔の石器（ナイフ・ヤジリ）を作って、魚をおろしたり、弓矢を射たり、親子で1日のコースです。	H16.1.17(土)	八千代市立郷土博物館	小学5年生以上と保護者	材料費 300円
火起こしを科学する	古代の「火起こし具」を自分たちで製作します。また、火が起こる過程を機器で観察したり、発火のメカニズムを科学的に検証します。親子で2日のコースです。	H16.2.11(水) H16.2.22(日)	千葉県立現代産業科学館	小学5年生以上と保護者	材料費 200円
勾玉を作ろう	古代の装飾品「勾玉」を、古代より少し製作しやすい石で作ります。古代の首飾りの出来上がり！身近な遺跡の話を聞いたりしながら、半日のコースです。	H15.8.8(金) H15.11.8(土)	千葉県文化財センター中央調査事務所 文化財センター本部	小学4年生以上	材料費 100円
管玉を作ろう	勾玉づくりを体験した人を対象に「管玉づくり」に挑戦します。	H15.8.22(金)	千葉県文化財センター中央調査事務所	小学4年生以上	材料費 200円
平成15年度 出土遺物巡回展 ～房総発掘ものがたり～	センターと県内地区文化財センターが調査した遺跡の中で注目される遺跡を選び、旧石器時代～古代の出土品を県内9カ所の博物館等で公開します。それぞれの開催館では解説会や講演会など各種イベントを予定しております。詳しくは各施設にお問い合わせ下さい。	H15.6.14(土)～H15.7.13(日) H15.7.19(土)～H15.8.10(日) H15.8.16(土)～H15.9.15(月) H15.9.20(土)～H15.10.13(月) H15.10.17(金)～H15.11.3(月) H15.11.8(土)～H15.12.7(日) H16.1.22(木)～H16.2.20(金) H16.1.22(木)～H16.2.20(金) H16.2.24(火)～H16.3.10(水)	浦安市郷土博物館 県立上総博物館 県立大利根博物館 県立安房博物館 さわかちは県民プラザ 県立関宿城博物館 八千代市立郷土博物館 県立房総風土記の丘 県立中央博物館	一般	無料



文化財センター展示室



出土遺物巡回展解説会



体験シリーズ「大昔の石器を作ろう」



千葉県遺跡調査研究発表会

その他・一般公開

公開事業	公開の概要	公開日・時間	費用	対象	参加費
文化財センター展示室	センター保管資料の一部を展示し、一般公開しています。	土・日・祝日年末年始を除く平日 (9:30～16:30)	無料	一般	無料
図書室の利用	県内をはじめとして、全国の埋蔵文化財発掘調査報告書約3万冊、考古学関係の本・図録・雑誌・研究紀要等約3万5千冊が閲覧できます。	土・日・祝日年末年始を除く平日 (9:00～17:00)	無料	一般	無料

表紙の説明

草刈遺跡G区
056号住居跡
(市原市ちはら台西4丁目)

この写真は、古墳時代後期（今から1,500年前）の台所の一角の様子です。住居は6m四方ほどの標準的な大きさで、その北西壁に炊事の中心になるカマドが造り付けられています。カマドの脇から、黒く煤けた調理用の土器（甕・甔）赤く彩られた盛り付け用の土器（椀・杯・高杯）などがまとまって出土しました。当時の台所に並べられていたものでしょうか？



房総の

文化財

VOL. 30



平成15年3月25日 財団法人 千葉県文化財センター
〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2
TEL 043-422-8811(代) FAX 043-422-8850
<http://www.chibaken-bunkazai-center.or.jp>

CONTENTS

- 発掘調査速報 房総半島発掘最南端！
- 遺物紹介コーナー 古代の彩り
- 遺跡今昔物語 養老川と共に歩んだ上総の人たち
- 平成15年度の主な行事予定



房総半島 発掘最南端！ —館山市萱野遺跡—



萱野遺跡全景 細長く発掘しているところに道路ができます

萱野遺跡は館山市国分^{くにぶん}に所在し、館山平野の中央付近を南北に走る砂丘列上にある遺跡です。平成14年8月から、県道富津館山線の建設に先立ち発掘調査を実施しています。今年度当センターの実施する調査では最も南の遺跡です。

この遺跡周辺は、現在所在が不明となっている安房国府^{あきふのくに}の推定地域にあたり、以前から土器などの遺物が多数散乱していることで有名な場所でした。今回の調査では残念ながら国府関連の遺構や遺物は見つかっていませんが、弥生時代～平安時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡などの集落跡が非常に高い密度で発見されています。遺跡の時代は、弥生時代～古墳時代前期にかけてが中心で、多量の土器のほか、大陸系の磨製石斧、ガラス玉や滑石製の勾玉、銅製の腕飾りや指輪といった装飾品など珍しいものも多く見つかり、当時の人々の生活がしのべれます。

館山平野ではこれまで祭祀遺跡（お祭りをした跡）や水田跡などは多く見つかりますが、当時の人々の生活の跡である集落遺跡についてはほとんど調査されていませんでした。特に弥生時代～古墳時代前期の竪穴住居は、館山市内では初めて見つかりました。今回の調査で当時の人々の生活を探るための貴重な資料が得られたと考えられます。



竪穴住居跡 今からおよそ1,500年前の住まいです

遺物紹介 コーナー

古代の彩り —胸もとを飾る魅力の首飾り—

古代（弥生時代から古墳時代頃）のネックレスには、緑の石と、青のガラスが好まれました。

君津市沖込古墳^{おきこめこふん}でも、緑色のジャスパー（碧玉）製管玉と、藍色のガラス製丸玉がたくさん出土しました。これらの中に珍しく、深紅の管玉が混ざっています。この宝石は、弥生時代から古墳時代に移るころに限っ

て愛用された「佐渡の赤玉」と呼ばれるジャスパーの一種で、新潟県からはるばる運ばれてきたと考えられています。

現在では、首飾りは主に女性の装飾品ですが、当時の首飾りは、男性も権力の象徴として装着していたと考えられます。いったいどんな人が身に付けていたのでしょうか？



佐渡の赤玉



日本の時代区分表

旧石器時代

縄文時代

弥生時代

古墳時代

平安時代

鎌倉時代

室町時代

江戸時代

明治時代

昭和時代

平成時代

(注)日本の旧石器時代の始まりについては、現在、再検討されています。よって、本紙では、新たな見解が発表されるまで、年代の記載を中止いたします。

約12,000年前 (この表は、100年を5mmで表現してあります。したがって、縄文時代は約50cmにもなります。)

約2,300年前

約1,700年前

飛鳥時代

西暦 794

奈良時代

1,192

1,333

1,573

1,603

1,868

安土・桃山時代 大正

養老川と共に歩んだ 上総の人たち

—市原市番后台遺跡—



番后台遺跡は、三方を養老川に囲まれた標高50m前後の台地上にあります。台地の縁は川に削られ、切り立った崖になっています。したがって、養老川からこの台地に水を汲み上げるために、明治10年代から昭和時代にかけて藤原式揚水車^{ふじわらしきやうすいしゃ}が使われていました。

昭和54年4月、養老川総合開発高滝ダム建設工事に伴い、ダムの湖底に沈む集落の移転先として宅地造成をするため、それに先立ち発掘調査が行われました。調査の結果、縄文時代から古墳時代の竪穴住居跡が130軒見つかりました。特に、古墳時代前半の竪穴住居跡が6割を占めています。この遺跡は、養老川沿いにおいて、当時としては最も奥まった場所に作られた集落と言えましょう。また、東海地方の土器や近畿地方の影響を受けた土器なども発見され、当時の先進地域と交流していたようです。

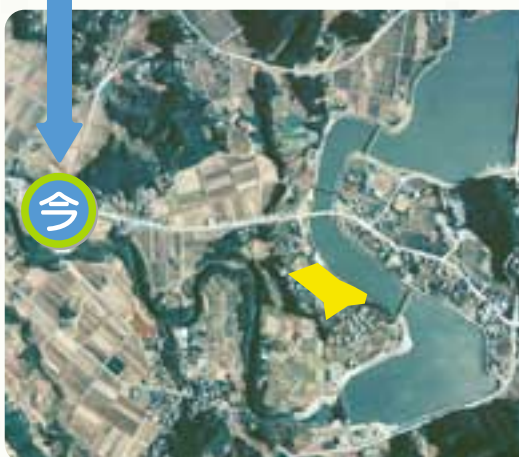
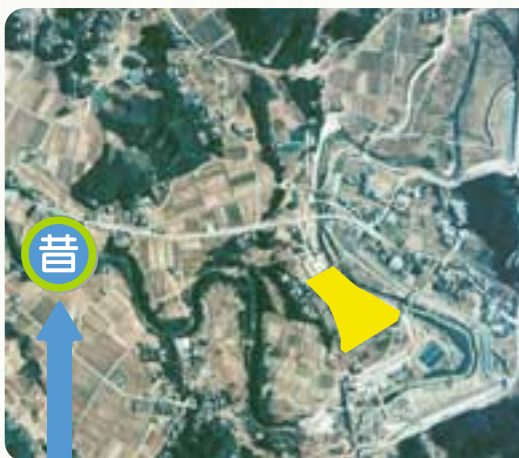
昭和57年にも、高滝取水場^{たかたきしずみじょう}を建設するため発掘調査が行われました。この時は、弥生時代の竪穴住居跡が1軒発見されています。

現在、番后台遺跡は一部残っていますが、その周辺はダムによって人造湖ができ、たくさんの水をたたえています。



番后台遺跡

現在の番后台遺跡周辺



(写真提供：高滝ダム管理事務所)